

環境経営レポート

2023年度版

対象期間：2023年7月～2024年6月



INOVENTURE

株式会社イノベンチャー

2024年8月31日 発行

目 次

1	組織の概要	 1
2	対象範囲、レポートの対象期間及び発行日	 3
3	環境経営方針	 4
4	環境経営目標	 5
5	環境経営計画	 6
6	環境経営目標の実績	 7
7	環境経営計画の取組結果とその評価並びに次年度以降の 環境経営目標及び環境経営計画	 10
8	環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟等の有無	 12
9	代表者による全体評価と見直しの結果	 12

1 組織の概要

(1) 事業者名及び代表者氏名

株式会社 イノベンチャー

代表取締役社長 小嶋 直之

(2) 事業所名及び所在地

本 社 : 〒950-0944 新潟県新潟市中央区上所3丁目11番96号1301

本社別館 : 〒950-2032 新潟県新潟市西区的場流通2丁目1番地18

TEL.025-250-7061 / FAX.025-250-7062

E-mail innoventure@advance620.co.jp

資材置場 : 〒950-1146 新潟県新潟市江南区太右工門新田大曾根150-1

(3) 環境管理責任者及び担当連絡者

環境管理責任者 代表取締役社長 小嶋 直之

事務局 成海 百代

本社別館 : 〒950-2032 新潟県新潟市西区的場流通2丁目1番地18

TEL.025-250-7061 / FAX.025-250-7062

E-mail innoventure@advance620.co.jp

(4) 事業の概要

土木工事業、管工事業、水道施設工事業、とび・土工工事業、産業廃棄物収集運搬業

(5) 事業規模

年度の区間は7月～翌年6月

項 目	単 位	2021年度	2022年度	2023年度
従業員数	人	8	10	15
工事件数	件	70	137	70
事務所床面積	m ²	101	101	101
売上高	万円	39,972	49,181	50,164

(6) 設立年月日

昭和59年4月17日

(7) 資本金

2,000万円

(8) 環境負荷の実績

項 目	単位	2021年度	2022年度	2023年度
電力使用量	kWh	8,155	6,827	9,501
化石燃料 (二酸化炭素排出量)	kg-CO ₂	38,636	37,287	57,417
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	42,363	40,407	61,759
水資源投入量	m ³	124	119	176

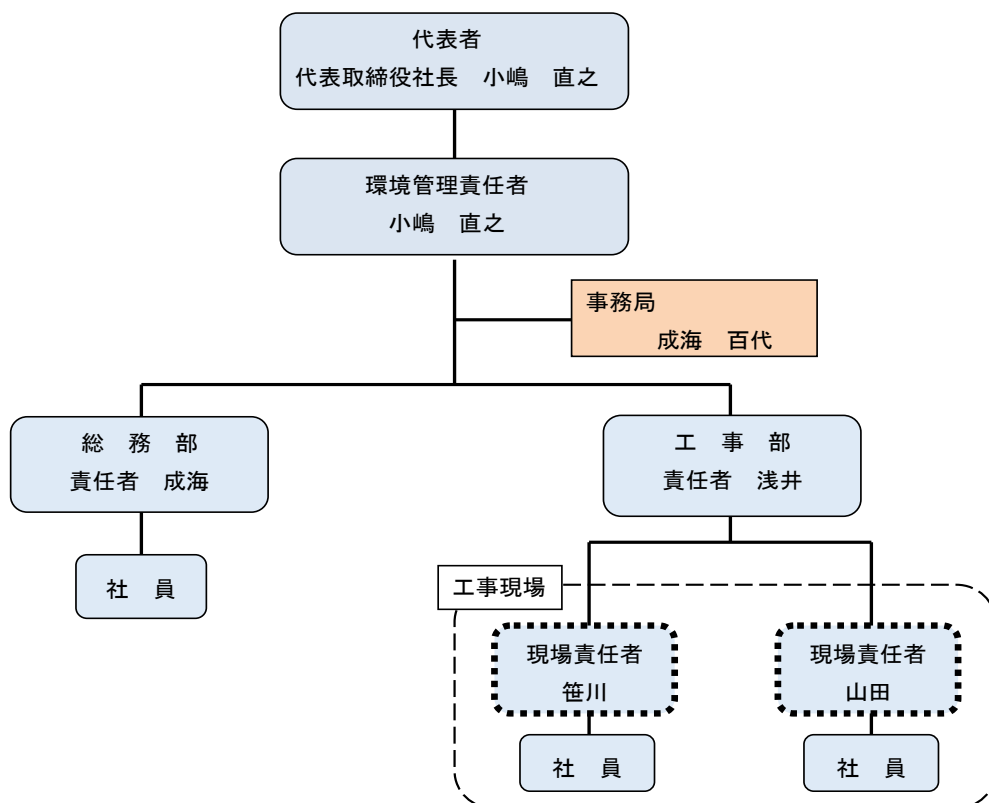
(9) 許可等の内容

(ア)建設業の許可内容

許可区分	許可番号	許可の有効期間	建設業の種類
一般	般-3 第14763号	令和3年6月23日～ 令和8年6月22日	建築工事業、管工事業
特定	特-3 第14763号	令和3年11月17日～ 令和8年11月16日	土木工事業、とび・土工工事業、水道施設工事業

(10) 組織図

株式会社イノベンチャー エコアクション2 1 実施体制



株式会社 イノベンチャー	代表者・総務部	工事部	合計
	2名	13名	15名

(11) 産業廃棄物収集運搬業の許可内容

許可の種類	許可番号	許可の内容
新潟県 産業廃棄物 収集運搬業	1508220496 令和3年2月25日 令和8年2月24日	・収集・運搬(積替え・保管を除く。) 廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類(以上、石綿含有産業廃棄物を除く。)、金属くず(以上、水銀使用製品産業廃棄物を除く。)

ア 事業計画

県内において、主に建設産業廃棄物排出業者の委託を受け、車両を用いて収集運搬を行う。
これらの実施に当たっては、産廃処理法を厳守し行う。

イ 産業廃棄物収集運搬業の用に供する全ての施設(積替え保管施設なし)

運搬車両の種類	台数
ダンプ	4台

ウ 収集運搬実績

	2023年度
収集運搬量	582.8t

2 対象範囲、レポートの対象期間及び発行日

(1) 対象範囲

ア 事業者名及び所在地

株式会社 イノベンチャー

- ・本社：新潟市中央区上所3丁目11番96号1301
- ・本社別館：新潟県新潟市西区的場流通2丁目1番地18
- ・資材置場：新潟県新潟市江南区太右エ門新田大曾根150-1

イ 事業内容

土木工事業、管工事業、水道施設工事業、とび・土工工事業、産業廃棄物収集運搬業

ウ 対象範囲

全組織・全活動

(2) レポートの対象期間及びレポートの発行日

表紙に記載のとおり

3 環境経営方針

環 境 経 営 方 針

基 本 理 念

私たちは、水道工事等の工事・設計・施工業者として、技術革新に研鑽し社会的に意義のある新たな価値と創造を生み出し地域社会に貢献するとする経営理念のもと、快適で良好な地域環境の創造と次世代に引き継ぐ地球環境の保全に寄与する活動を全員参加で推進します。これを実現するため、下記の行動指針に基づく活動を行うとともに、経営における課題やチャンスを踏まえ、環境経営の継続的な改善に努めます。

行 動 指 針

- 1 電力や化石燃料の効率的な使用を行い二酸化炭素排出量の削減に努めます。
- 2 車両のエコドライブ、重機のエコ運転を行い、安全の確保、省エネを図ります。
- 3 建設廃棄物の再資源化を進め、廃棄物排出量の排出抑制に努めます。
- 4 水は大切に使用し、節水に努めます。
- 5 建設使用資材の適正な使用及び適正な在庫管理に努めます。
- 6 環境関連法規等を遵守します。
- 7 環境経営方針は、公開するとともに、全従業員に周知し、自己啓発に努めます。

令和 2 年 9 月 30 日制定
株式会社イノベンチャー
代表取締役 小嶋 直之

4 環境経営目標

2022年7月～2025年6月までの3年間の環境経営目標は下記のとおり定めました。

中長期の環境経営目標（2022年度～2024年度）

△：削減
▲：増加

項 目			単位 (原単位は売上 高100万円当り の使用量)	基準年実績		環境経営目標(二酸化炭素、水に関する目標は売上高原単位)		
				2021年7月～2022年6月		2022年度	2023年度	2024年度
						2022年7月 ～2023年6月	2023年7月 ～2024年6月	2024年7月 ～2025年6月
				使用量又は排出量等	売上高100万円原単位			
売上高(100万円)								
				399.72				
二 酸 化 炭 素 排 出 量 の 削 減	電力使用量の削減		kWh	8,155	20.40	20.30	20.20	20.10
			対基準年実績増減率			△ 0.5 %	△ 1.0 %	△ 1.5 %
	化 石 燃 料 使 用 量	灯油	ℓ	150.0	0.375	0.373	0.371	0.369
			対基準年実績増減率			△ 0.5 %	△ 1.0 %	△ 1.5 %
		LPG	Nm3	7.6	0.0190	0.0189	0.0188	0.0187
			対基準年実績増減率			△ 0.5 %	△ 1.0 %	△ 1.5 %
		ガソリン	ℓ	3,833.45	9.59	9.54	9.49	9.45
			対基準年実績増減率			△ 0.5 %	△ 1.0 %	△ 1.5 %
		軽油	ℓ	11,365.07	28.43	28.29	28.15	28.01
			対基準年実績増減率			△ 0.5 %	△ 1.0 %	△ 1.5 %
	計	二酸化炭素 排出量	kg-CO ₂	42,363.02	105.98	105.45	104.92	104.39
			対基準年実績増減率			△ 0.5 %	△ 1.0 %	△ 1.5 %
水使用量の削減			m ³	124	0.3102	0.309	0.307	0.306
			対基準年実績増減率			△ 0.5 %	△ 1.0 %	△ 1.5 %
一般廃棄物排出量の削減 (可燃ごみ)			kg	122.3	—	—	121.7	121.1
			対基準年実績増減率			△ - %	△ 0.5 %	△ 1.0 %
建設廃棄物の 再資源化の推進			% (再資源化率)	100.0	—	100	100	100
			対基準年実績増減率			現状維持	現状維持	現状維持
在庫・資材の適正管理の推進			評価点	3.0	—	—	4.0	4.2
			対基準年実績増減率			△ - %	▲1ポイント	▲1.2ポイント

- ・購入電力の二酸化炭素排出係数は、2020年度東北電力㈱の調整後排出係数**0.457**kg-CO₂/kWhを使用
- ・PRTR制度対象物質を使用していないため、化学物質使用量削減に関する目標は設定しない。
- ・再資源化率＝再資源化量/建設廃棄物排出量 基準年の再資源化率＝873.226t/873.226t
- ・在庫・資材の適正管理の推進の評価点(基準年実績)は、10ページに示すとおり、環境経営計画の実施状況を5段階評価により、評価・点検を行い点検項目の評価点の平均値を示します。
- ・一般廃棄物及び在庫・資材の適正管理の推進の基準年は2022年度とする。

5 環境経営計画

環境経営計画は、下表のとおり決めました。

環境経営計画(2023年度)

環 境 経 営 計 画		事務所	工事部	スケジュール	担当
①-1 電力使用量（二酸化炭素排出量）削減					
昼休みは消灯する。	○	○	通年	成海	
外出時、残業時などは不要な電灯は消灯する。	○	○	通年		
エアコンのフィルターの掃除を定期的に行う。	○	—	7～9月 12～3月		
冷房温度を28℃以上、暖房温度を20℃以下に維持する。	○	○	7～9月 12～3月		
クールビズを励行する。	○	—	6～9月		
パソコンは昼休み時間は電源 OFF にする。	○	—	通年		
①-2 化石燃料使用量（二酸化炭素排出量）削減					
車の運転はエコドライブ10を厳守する。 1. ふんわりアクセル「eスタート」 2. 車間距離にゆとりをもって、加速・減速の少ない運転をする。 3. 減速時は早めにアクセルを離す。 4. エアコンの使用は適切に行う。 5. ムダなアイドリングはやめる。 6. 渋滞を避け、余裕をもって出発する。 7. タイヤの空気圧から始める点検・整備の実施 8. 不要な荷物はおろす。 9. 走行の妨げとなる駐車はやめる。 10. 急発進・急ブレーキのない運転を行う。	○	○	通年	浅井	
トラック・重機の省エネ運転を徹底する。	—	○	通年	成海	
暖房温度を20℃以下に維持する。	○	○	12～3月		
ウォームビズを励行する。	○	—	11～3月		
ガス湯沸かし器の省エネに心掛ける。	○	—	通年		
②水使用量の削減					
洗濯機・洗車などの水使用量を節約する。	○	○	通年	成海	
工事に使用する水道水は、適正使用を心掛ける。	○	○	通年		
トイレの水使用量の節約に心掛ける。	○	○	通年		
③一般廃棄物の排出量削減（紙の節約・分別再資源化）					
コピーは原則として両面コピーとする。	○	○	通年	成海	
片面使用コピー紙で可能なものは、裏面再使用する。	○	○	通年		
分別を徹底し再資源化する。	○	○	通年		
④建設廃棄物の再資源化の推進					
工事現場から発生する産廃は、極力分別して再資源化する。	—	○	通年	浅井	
現場作業において、端材の発生量が少なくなるよう工夫する。	—	○	通年		
⑤在庫・資材の適正管理の推進					
資材置場の整理整頓を行う。	—	○	通年	浅井	
建設資材の無駄な発注をしない。	—	○	通年		
端材の発生を減らし、適正な使用を行う。	—	○	通年		

6 環境経営目標の実績

2023年7月～2024年6月の環境経営目標の実績は下表のとおりです。

電力、灯油、LPG、ガソリン、軽油及び二酸化炭素排出量、水使用量については、売上高当りの原単位として環境経営目標を定め、取り組みました。

原単位の環境経営目標では、軽油使用量及び二酸化炭素排出量の削減目標が未達成となりました。工事件数も基準年に比べ大きく伸び、車両の増車、重機の稼働増加、トラックの運搬増加により軽油使用量が増加したことが主な要因です。

また、基準年に比べ増員の影響が大きかった、水使用量及び一般廃棄物排出量削減目標も未達成となりましたが、それ以外は全て目標達成しました。

環境経営目標の実績（2023年7月～2024年6月）

△：削減
▲：増加

項 目			単位 (原単位は売上 高100万円当り の使用量)	基準年実績		環境経営目標・実績(二酸化炭素、水に関する目標は売上高原単位)			
				2021年7月～2022年6月		2023年7月～2024年6月			
						環境経営目標	使用量又は 排出量等実績	売上高 100万円当り 原単位実績	目標達成状況
				使用量又は排出量等	売上高(100万円)			売上高(100万円)	
二 酸 化 炭 素 排 出 量 の 削 減	電力使用量の削減		kWh	8,155	20.40	20.20	9,501	18.94	○
			対基準年実績削減率			△ 1.0 %	△ 7.2%		
	化 石 燃 料 使 用 量	灯油	ℓ	150.0	0.375	0.371	145.0	0.289	○
			対基準年実績削減率			△ 1.0 %	△ 22.9%		
		LPG	Nm3	7.6	0.0190	0.0188	7.0	0.0140	○
			対基準年実績削減率			△ 1.0 %	△ 26.3%		
		ガソリン	ℓ	3,833.45	9.58	9.48	4,756.19	9.48	○
			対基準年実績削減率			△ 1.0 %	△ 1.0%		
		軽油	ℓ	11,365.07	28.43	28.15	17,820.88	35.53	×
			対基準年実績削減率			△ 1.0 %	▲ 25.0%		
	計	二酸化炭素 排出量	kg-CO ₂	42,363.02	105.98	104.92	61,758.71	123.11	×
			対基準年実績削減率			△ 1.0 %	▲ 16.2%		
	水使用量の削減			m ³	124	0.3102	0.307	176	0.351
対基準年実績削減率						△ 1.0 %	▲ -13.2%		
一般廃棄物排出量の削減 (可燃ごみ)			kg	122.3	—	121.7	141.9	—	×
			対基準年実績削減率			△ 0.5 %	▲ 16.0%		
建設廃棄物の 再資源化の推進			% (再資源化率)	100	—	100 417.3t/417.3t	—	○	
			対基準年実績増加数			現状維持	▲ 0.0%		
在庫・資材の適正管理の推進			評価点	3.0	—	4.0	4.4	—	○
			対基準年実績増加数			▲ 1ポイント	▲ 1.0ポイント		

購入電力の二酸化炭素排出係数は、2020年度東北電力㈱の調整後排出係数**0.457**kg-CO₂/kWhを使用

PRTR制度対象物質を使用していないため、化学物質使用量削減に関する目標は設定しない。

再資源化率＝再資源化量/建設廃棄物排出量 基準年の再資源化率＝873.226t/873.226t

在庫・資材の適正管理の推進の評価点(基準年実績)は、10ページに示すとおり、環境経営計画の実施状況を5段階評価により、評価・点検を行い点検項目の評価点の平均値を示します。

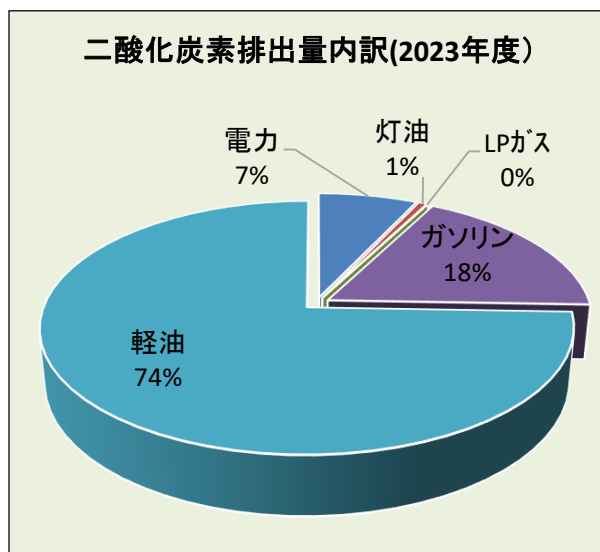
増減率は対基準年比

(1) 二酸化炭素排出量の削減

2023年度の二酸化炭素排出量の排出源であるエネルギー種類別の排出内訳を右の図に示しました。

軽油由来が最も多く全体の74%を占めています。軽油は、重機、軽油使用自動車の燃料に使用されています。ついでガソリン車で使用するガソリンが18%を占め、電力由来は7%となっています。

以下にエネルギー別の環境経営目標の実績を示します。



ア、電力使用量の削減

活動期間(2023年7月から2024年6月まで)の電力使用量の環境経営目標は、2021年7月～2022年6月の実績(以下基準年実績:売上高100万当りの使用量:原単位)1.0%削減の20.20kWh/売上高100万円以下としました。

実績は、基準年実績7.2%削減の18.94kWh/売上高100万円で、環境経営目標を達成しました。節電は周知徹底されていました。

イ、灯油使用量の削減

活動期間の灯油使用量の環境経営目標は、基準年の1.0%削減の0.371ℓ/売上高100万円以下を環境経営目標としました。

実績は、基準年実績を22.9%削減し、0.289ℓ/売上高100万円で、環境経営目標を達成することができました。

灯油使用量は、例年並みに抑えることができました。今後も引き続き、室内温度の調整管理により、削減に努めます。

ウ、ガス(LPG)使用量の削減

活動期間のガス(LPG)使用量の環境経営目標は、基準年実績の1.0%削減の0.0188Nm³/売上高100万円以下を環境経営目標としました。

実績は、基準年実績の26.3%削減の0.0140Nm³/売上高100万円で、環境経営目標を達成しました。

使用量も削減され、事務所における給湯器の管理が適切に行われた結果、原単位目標を達成することができました。

エ、ガソリン使用量の削減

活動期間のガソリン使用量の環境経営目標は、基準年実績の1.0%削減の9.49ℓ/売上高100万円以下を環境経営目標としました。

実績は、基準年実績の1.0%削減の9.48ℓ/売上高100万円で、環境経営目標を達成しました。

今後もエコドライブを心がけ、使用量の抑制に努めていきます。

オ、軽油使用量の削減、

活動期間の軽油使用量の環境経営目標は、基準年実績の1.0%削減の28.15ℓ/売上高100万円以下を環境経営目標としました。

実績は、基準年実績の25.0%増加の35.53ℓ/売上高100万円で、環境経営目標を達成できませんでした。

現場業務が増加したことから運搬車両及び重機を増車、その結果、軽油の使用量は基準年の2割強と大幅な増加となりました。

引き続き車両のエコドライブ、重機のエコ運転に努めていきます。

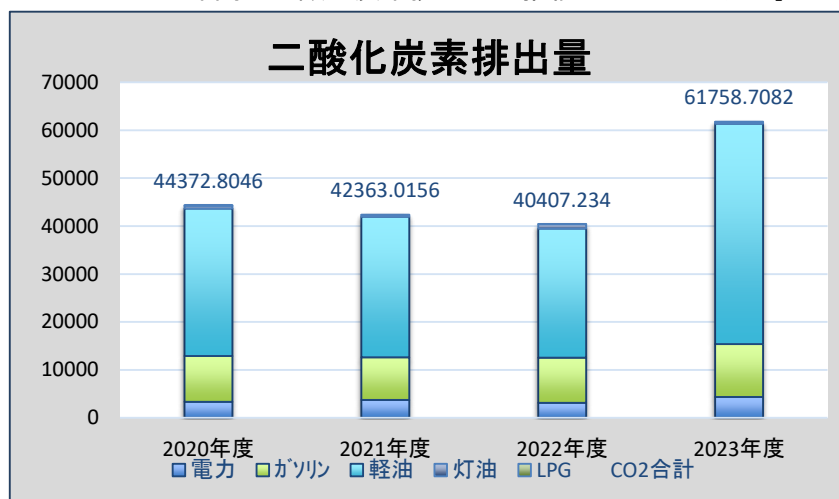
カ、二酸化炭素排出量の削減

活動期間の二酸化炭素排出量の環境経営目標は、基準年実績の1.0%削減の104.92kg-CO₂/売上高100万円以下としました。

実績は、基準年実績の16.2%増加の123.11kg-CO₂/売上高100万円で、環境経営目標を達成できませんでした。売上高が伸びたことから、原単位の目標は軽油使用量、二酸化炭素排出量削減以外は目標を達成することができました。

軽油の使用は、会社全体の二酸化炭素排出量の74%を占めることから、その使用量の抑制は二酸化炭素排出量の削減にとって重要であり、今後も、エコドライブ、重機のエコ運転に努め二酸化炭素排出量の削減に努めていきます。

◆過去4年間の二酸化炭素排出量の推移 (kg-CO₂)



(2) 水使用量の削減

活動期間の水使用量の環境経営目標は、基準年実績の1.0%削減の0.307m³/売上高100万円以下としました。

実績は、基準年実績の13.2%増加の0.351m³/売上高100万円で、環境経営目標を達成できませんでした。事務所における節水の管理は、適切に行われていましたが、現場での使用量が増加しました。現場清掃に水道水を持ち込むなど、清掃活動の使用が増え、結果、目標未達成となりました。今後は、節水活動を定着させていきます。

(3) 一般廃棄物の削減

活動期間の一般廃棄物排出量の環境経営目標は、基準年実績の1.0%削減の121.7kg以下としました。

実績は、基準年実績の16.0%増加の141.9kgで、環境経営目標を達成できませんでした。

基準年に比べ、業務増加及び人員増加により、一般廃棄物が増加しました。基準年を検討し、今後も、一般廃棄物排出量の削減に努めます。

(4) 建設廃棄物の再資源化の推進

活動期間の建設廃棄物の再資源化の推進の環境経営目標は、基準年期間再資源化率100%の現状維持としました。

再資源化率の実績は、100%と環境経営目標を達成しました。処理委託先において再資源化できるものは、全量再資源化が行われています。今後も、分別の徹底などにより再資源化を進めていきます。

(5) 在庫・資材の適正管理の推進

活動期間の在庫・資材の適正管理の推進に係る環境経営目標は、これに関する環境経営計画の活動状況の平均評価点とし、基準年実績の1ポイント増の4.00点以上としました。

在庫・資材の適正管理の推進の環境経営計画の5段階評価による平均評価点4.44点で、環境経営目標を達成しました。

今後も、評価点を維持し、在庫を増やさないう、在庫・資材の適正管理の推進を進めます。

7 環境経営計画の取組結果とその評価並びに次年度の環境経営目標及び環境経営計画

(1) 環境経営計画の取組結果とその評価

環境経営計画の実施状況を、5段階評価で評価・点検を行いました。点検頻度は対象部署ごとに年間3回で、その平均評価結果は下表のとおりです。活動の向上が必要な事項(特に、エコドライブや、冷暖房に係る温度設定、節水)については、周知、徹底により向上を目指します。

環境経営計画点検結果(2023年7月～2024年6月)

全社	環境経営計画	対象部署		評価結果		年間平均点	次年度の環境 経営計画
		事務所	工事事務所	事務所	工事事務所		
①-1 電力使用量(二酸化炭素排出量)削減							
昼休みは消灯する。		○	○	5.0	5.0		継続
外出時、残業時などは不要な電灯は消灯する。		○	○	5.0	5.0		継続
エアコンのフィルターの掃除を定期的に行う。		○	△	3.3	△		継続
冷房温度を28℃以上、暖房温度を20℃以下に維持する。		○	○	3.3	3.3		継続
クールビズを励行する。		○	—	5.0	—		継続
パソコンは昼休み時間は電源OFFにする。		○	△	5.0	△		継続
①-2 化石燃料使用量(二酸化炭素排出量)削減							
車の運転はエコドライブ10を厳守する。							継続
1.ふんわりアクセル「eスタート」		○	○	3.3	4.3		継続
2.車間距離にゆとりをもって、加速・減速の少ない運転をする。		○	○	4.3	5.0		継続
3.減速時は早めにアクセルを離す。		○	○	4.3	5.0		継続
4.エアコンの使用は適切に行う。		○	○	3.7	4.3		継続
5.ムダなアイドリングはやめる。		○	○	4.0	5.0		継続
6.渋滞を避け、余裕をもって出発する。		○	○	5.0	4.7		継続
7.タイヤの空気圧から始める点検・整備の実施		○	○	3.3	3.7		継続
8.不要な荷物はおろす。		○	○	4.3	5.0		継続
9.走行の妨げになる駐車はやめる。		○	○	5.0	5.0		継続
10.急発進・急ブレーキのない運転を行う。		○	○	4.3	5.0		継続
トラック・重機の省エネ運転を徹底する。		△	○	△	3.7		継続
施行計画に沿った工事の確実な実施		△	○	△	—		追加
忘れ物を無くし手戻りを防止(燃料の削減)		△	○	△	—		追加
創意工夫により工事現場の条件に対応した工事の施工		△	○	△	—		追加
暖房温度を20℃以下に維持する。		○	○	4.3	3.3		継続
ウォームビズを励行する。		○	△	5.0	△		継続
ガス湯沸かし器の省エネに心掛ける。		○	△	5.0	△		継続
②水使用量の削減							
洗濯機・洗車などの水使用量を節約する。		○	○	4.3	3.3		継続
工事に使用する水道水は、適正使用を心掛ける。		○	○	5.0	3.3		継続
トイレの水使用量の節約に心掛ける。		○	○	5.0	3.7		継続
現場清掃は、事前の清掃を十分に行之、無駄な水の使用をなくす。		△	○	△	—		追加
③一般廃棄物の排出量削減(紙の節約・分別再資源化)							
コピーは原則として両面コピーとする。		○	○	5.0	4.7		継続
片面使用コピー紙で可能なものは、裏面再使用する。		○	○	5.0	5.0		継続
分別を徹底し再資源化する。		○	○	5.0	5.0		継続
④建設廃棄物の再資源化の推進							
工事現場から発生する産廃は、極力分別して再資源化する。		△	○	△	5.0		継続
現場作業において、端材の発生量が少なくなるよう工夫する。		△	○	△	4.3		継続
⑤在庫・資材の適正管理の推進							
資材置場の整理整頓を行う。		△	○	△	4.7		継続
建設資材の無駄な発注をしない。		△	○	△	4.3		継続
端材の発生を減らし、適正な使用を行う。		△	○	△	4.3		継続
⑥受託廃棄物の再資源化の推進							
工事現場から発生する産廃は、極力分別して再資源化する。		△	○	△	—		追加
現場作業において、端材の発生量が少なくなるよう工夫する。		△	○	△	—		追加

【評価点】 5: 優れている(模範となる) 4: やや優れている(評価できる) 3: 良い(実施できた) 2: やや良い 1: 普通

(2) 次年度の環境経営目標及び環境経営計画

中長期目標を、下記に示します。令和6年7月末に、事務所を移転したことから、電力、灯油、LPガス使用量は、使用状況を見極めるため現状把握としました。また、新たに受託産廃の目標を追加しました。次年度の環境経営計画については、前頁の次年度の環境経営計画に示すとおり現行の環境経営計画を継続し、化石燃料削減及び、水使用量削減については活動項目を追加し、活動の強化を図ります。また、新たに追加した、受託産廃の再資源化目標に係る項目を追加します。

中長期の環境経営目標（2024年度～2026年度）

△：削減
▲：増加

項 目			単位 (原単位は売上高100万円当りの使用量)	基準年実績		環境経営目標(二酸化炭素、水に関する目標は売上高原単位)		
				2023年7月～2024年6月		2024年度	2025年度	2026年度
						2024年7月～2025年6月	2025年7月～2026年6月	2026年7月～2027年6月
				使用量又は排出量等	売上高100万円原単位			
売上高(100万円)								
				501.64				
二酸化炭素排出量の削減	電力使用量の削減		kWh	9,501	18.94	現況把握	目標管理	目標管理
			対基準年実績増減率					
	化石燃料使用量	灯油	ℓ	145.0	0.289	現況把握	目標管理	目標管理
			対基準年実績増減率					
		LPG	Nm3	7.0	0.0140	現況把握	目標管理	目標管理
			対基準年実績増減率					
		ガソリン	ℓ	4,756.19	9.48	9.43	9.39	9.34
			対基準年実績増減率			△ 0.5 %	△ 1.0 %	△ 1.5 %
		軽油	ℓ	17,820.88	35.53	35.35	35.17	35.00
			対基準年実績増減率			△ 0.5 %	△ 1.0 %	△ 1.5 %
	計	二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	61,892	123.4	122.8	122.2	121.5
			対基準年実績増減率			△ 0.5 %	△ 1.0 %	△ 1.5 %
水使用量の削減			m ³	124	0.2472	0.246	0.245	0.243
			対基準年実績増減率			△ 0.5 %	△ 1.0 %	△ 1.5 %
一般廃棄物排出量の削減 (可燃ごみ)			kg	141.9	—	141.2	140.5	139.8
			対基準年実績増減率			△ 0.5 %	△ 1.0 %	△ 1.5 %
建設廃棄物の再資源化の推進			% (再資源化率)	100 873.2t/873.2t	—	100	100	100
			対基準年実績増減率			現状維持	現状維持	現状維持
在庫・資材の適正管理の推進			評価点	4.4	—	4.5以上	4.5以上	4.5以上
			対基準年実績増減率			▲0.1ポイント	▲0.1ポイント	▲0.1ポイント
受託産業廃棄物の再資源化の推進			% (再資源化率)	100 582.8t/582.8t	—	100	100	100
			対基準年実績増減率			現状維持	現状維持	現状維持

- ・購入電力の二酸化炭素排出係数は、2022年度東北電力㈱の調整後排出係数**0.471**kg-CO₂/kWhを使用
- ・PRTR制度対象物質を使用していないため、化学物質使用量削減に関する目標は設定しない。
- ・再資源化率＝再資源化量/建設廃棄物排出量 基準年の再資源化率＝417.3t/417.3t
- ・在庫・資材の適正管理の推進の評価点(基準年実績)は、10ページに示すとおり、環境経営計画の実施状況を5段階評価により、評価・点検を行い点検項目の評価点の平均値を示します。
- ・受託産業廃棄物の再資源化の推進は、受託産廃のうち再資源化ルートへの運搬の割合とする。

8 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

(1)環境関連法規等の遵守状況の確認結果

当社が規制対象となる下表の環境関連法令について、遵守状況を自主点検した結果、違反がないことを確認しました。

NO	関係法令
1	水質汚濁防止法
2	下水道法
3	騒音規制法
4	振動規制法
5	廃棄物処理法
6	新潟市産業廃棄物等の適正な処理の促進に関する条例
7	建設リサイクル法
8	家電リサイクル法
9	自動車リサイクル法
10	新潟市生活環境の保全等に関する条例
11	新潟市火災予防条例
12	一般高圧ガス保安規則
13	道路交通法
14	道路運送車両法
15	オフロード法
16	建設業法
17	大気汚染防止法
18	石綿障害予防規則
19	フロン排出抑制法
20	小型家電リサイクル法

(2)違反、訴訟等の有無

当社は、関係当局から違反などの指摘はありませんでした。また訴訟もありません。

9 代表者による全体評価と見直しの結果

(1) 全体の評価

経営システムは有効に機能しており、環境への取り組みは適切に実施されていた。

売上高当りの原単位目標は、売上高の増加により、原単位目標においては、電力、灯油、LPガス、ガソリン使用量削減目標は達成したが、現場業務が増加したことで軽油使用量が大幅に増加し、軽油削減目標は未達成となった。業務増加、社員増員により水使用量及び一般廃棄物削減目標も未達成となったが、建設廃棄物再資源化目標及び在庫資材管理目標は達成することができた。

業務が増加している中、省エネを重視しながらの活動や、環境経営計画も概ね実施され評価できる結果であった。今後も、さらなる向上を目指し、引き続き、車両・重機のエコ・安全運転等の活動を全員参加で実施し、環境負荷の削減に努めていくこと。

(2) 見直しの結果

ア 環境経営方針

変更の必要性はない。

イ 環境経営目標

業務の形態等基準年と異なっていることから、直近年を基準に目標を変更する。また、新たに受託産廃の再資源化目標を追加する。但し、2024年7月に事務所を移転したことから、次年度の目標のうち、変動増加が予想される電力・灯油・LPガス使用量削減目標については、実態把握とする。

ウ 環境経営計画

目標変更に合わせて、経営計画も追加する。また、軽油使用量及び水使用量削減にかかる項目に、作業現場の活動項目を追加する。

エ 実施体制

現行の実施体制を維持する。

オ その他環境経営システム

変更の必要性はない。